令和6年度 発達支援相談事業経過報告

(令和6年12月末時点)

※R5年度実績数はR5年12月末時点

1.早期発見、早期フォロー支援体制の継続

◎5つの専門相談

発達相談(心理士による相談)・OT相談(作業療法士による相談)・ことばの相談(言語聴覚士による相談)・発達クリニック及び発達支援クリニック(小児科医による相談)を実施。

発達相談は今年度も心理士2名体制で実施しているが、1名は4月からの新規採用であり半年程度 学ぶ期間としていることと、もう1名の心理士が怪我のため数ヶ月の休職期間があったことから、 相談件数は少なめになっている(表1)。

就学後のケース数は例年通りだが、相談件数全体の割合では3割程度になり、引き続き就学後のフォロー体制も充実している(表2)。

◎遊びの教室(小集団親子教室)

前期・後期とも全11回の開催予定で、12月末までに後期の6回目まで実施。 4月は3名でスタートし、1名転出、途中からの登録が10名あり、現在は登録者12名で運営中。 療育に1名紹介し、2月から利用開始となる。

◎のびのび教室(ペアレントトレーニング:保護者が子どもの行動の見方を学ぶ、または、「安心感の輪子育てプログラム」:愛着理論に基づいて親子関係を培う)発達支援相談利用者や療育利用者に案内し実施中。9名の参加がある。受講後のフォロー会は、「安心感の輪子育てプログラム」の修了者1名に行った。

◎母子保健事業との連携

乳幼児健診を中心に連携を実施。各相談・遊びの教室・園巡回相談・専門機関への連携等、 こども家庭課と協力しながら早期発見・早期支援を実施している。

(表1)発達支援相談利用者数

	実人数				相談別人数										
年度	男子	女子	合計	発達 実	相談延	OTa 実	相談 延	言語	相談 延	発達が、実	リニック 延	発達支援	クリニック 延	相談 実	参加延
R5年度	177	82	259	155	196	171	225	54	71	6	11	8	8	394	511
R6年度	167	56	223	114	138	154	198	41	57	5	6	8	8	322	407

(表2)年齡別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3
R5年度	8	4	28	45	48	65	23	15	7	4	1	1	2	5	0	1	2	0
(割合)	3.1%	1.5%	10.8%	17.4%	18.5%	25.1%	8.9%	5.8%	2.7%	1.5%	0.4%	0.4%	0.8%	1.9%	0.0%	0.4%	0.8%	0.0%
	76.4%				23.6%													
R6年度	6	12	11	29	46	56	24	13	13	6	2	0	2	0	2	0	0	1
(割合)	2.7%	5.4%	4.9%	13.0%	20.6%	25.1%	10.8%	5.8%	5.8%	2.7%	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.4%
	71.7%			28.3%														

(表3)相談経路別実人数

	経過者	保護者	健診	保健師	保·幼	学校	保健所	その他
R5年度	156	28	44	3	21	2	0	5
(割合)	60.2%	10.8%	17.0%	1.2%	8.1%	0.8%	0.0%	1.9%
R6年度	142	22	24	3	19	7	0	7
(割合)	63.4%	9.8%	10.7%	1.3%	8.5%	3.1%	0.0%	3.1%

				健診		
		乳児 前期	乳児 後期	1. 8 健診	2. 5 健診	3. 5 健診
	R5年 度	0	8	1	16	19
*	(割合)	0.0%	18.2%	2.3%	36.4%	43.2%
	R6年度	0	6	2	8	8
	(割合)	0.0%	25.0%	8.3%	33.3%	33.3%

(表4)発達支援相談の最終フォロー人数

	相談	終	了 //-
	継続	医療紹介	終了
R5年度	180	21	58
(割合)	69.5%	8.1%	22.4%
R6年度	169	13	41
(割合)	75.8%	5.8%	18.4%

2. 児童発達支援事業の体制整備

関係機関と連携をとりながら、随時受け入れ体制の調整を行った。 児童発達支援事業についてはつくし園より報告(別紙資料参照)。 その他、別紙資料参照(つくし園より報告)。

花ノ木医療福祉センター委託による南丹市個別療育事業も2名の利用児があった(表5)。

(表5)花ノ木医療福祉センターでの個別児童発達支援事業の利用状況

	実	延	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
R5年度	2	64	0	0	0	2
R6年度	2	71	0	0	1	1

3. 保育所・幼稚園・こども園支援の継続

園巡回では、まだ相談事業につながっていないケースが主に対象児として挙がっている。 ミーティングでは、その後のフォローについても検討され、場合によっては相談事業を紹介することもある。 教育相談(学校教育課)と協働での相談事業が1回あった。普段から園巡回や相談事業で対象児の様子を 知っているセンタースタッフの視点と学校現場からの視点で、より深く評価をすることにつながった。

(表6)園巡回相談数

	園部		八木		日吉		美山		合計	
	園数(延)	児延数								
R5年度	17	61	6	29	4	14	2	16	29	120
R6年度	15	53	5	23	3	18	2	8	26	102

4. 就学後支援の継続

放課後児童クラブ・学校訪問、検査結果連携を実施。小学生の相談・参観・連携ケースが増加傾向にあり、 就学後の支援も充実してきている。ケース会議や教育支援委員会等に参加するなど、関係機関の事業を 通して間接的に関わることも増えている(表7)。

(表7)就学後支援数 (新小学校・中学校入学児童以外)

	合	計
	連携数(延)	児童数(延)
R5年度	17	51
R6年度	36	100

5. 移行期支援の継続

発達支援センターの事業を利用している児童について、入園・入学時の移行期に保育所・幼稚園・こども園・ 学校・放課後児童クラブ等と、情報連携や参観・訪問を行った(表8)。

(表8)新入生連携数 (新小学校・中学校入学児童ケース連携・参観:小学校及び放課後児童クラブ)

	合	計
	連携数(延)	児童数(延)
R5年度	15	98
R6年度	25	171

6. その他(研修講師等の実施)

- ・希望のあった全ての園でスキルアップ講習会を実施。
- スキルアップ講習会では、相談事業や園巡回のミーティングに参加する機会の少ない加配保育士や若手保育士が、日頃の保育で感じる悩みを共有し、保育士同士や専門職を交えて意見交換できる機会となっている。
- ・昨年に引き続き、園から作業療法士による親子運動参観の依頼が7件あり、発達に関わる講話と一緒に身体を動かして遊ぶ実技を実施した。活動の様子は南丹テレビで放送もされた。 7件中6件が0~2歳児クラスへの依頼で、低年齢のうちから発達に大事な視点を保護者に知っていただくことを求められている。
- ・小学校支援学級にて作業療法(運動プログラム等)を実施し、支援学級担任と協働してプログラムを立案した。

(表9)研修講師の内容

6月	3日:みやまこども園3歳児運動プログラム、21日:のぞみ園5歳児親子参観
7月	29日:八木東幼児学園スキルアップ講習会
8月	8日:八木中央幼児学園スキルアップ講習会、30日:こども家庭課(保健師・相談員)研修会
9月	6日:園部保育所1歳児親子参観
10月	28日:みやまこども園スキルアップ講習会
11月	5日:保育士4歳児部会、14日:城南保育所0, 1歳児親子参観 19日:ひよしこども園3, 4歳児親子参観、21日:八木東小学校支援学級運動プログラム 29日:胡麻保育所1, 2歳児親子参観
12月	3日:のぞみ園スキルアップ講習会、4日:ファミリーサポート研修会 12日:つくし園職員研修会、13日:八木東幼児学園0,1歳児親子参観 16日:城南保育所2歳児運動プログラム